

第22回組織活動交流集会 10月13日ラポールにて

県退教協だよりNO.81

長崎県退職教職員等連絡協議会

長崎市筑後町二丁目 教育文化会館

☎〇九五―八二二―五一九五

日退教の翼をさらに大きく

西澤会長挨拶



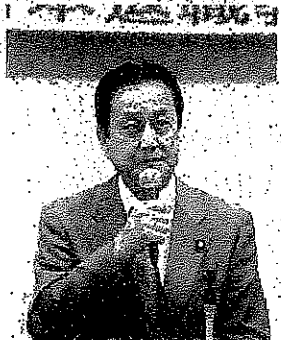
挨拶をする西沢会長

「弱者、貧乏人は自己責任で仕方ない」と言う風潮が広がっている。では、「現代の賈物の力」は何か。それは、「利権」と「メディアの宣伝力」である。

「満州事変」翌年の1932年、伊丹万三は映画「国土無双」で、「本物が賈物に敗れるわけがない」と決闘を挑み敗けてしまった。伊勢伊勢守に、「賈物が「賈物も本物もない強者が正義だ」と言わせている。日本の現状に当時を重ね合わせるとどうか。

「積極的平和主義」が「軍備を進める」とすりかえられ、賈物が「本物」にされてしまう。「派遣労働」がいつの間にか「正規労働」にされてしまう。「一億総活躍」なる言葉は、「働か

ざる者は食うべからず」を思い出す。弱者、貧乏人は自己責任で仕方ない」と言う風潮が広がっている。では、「現代の賈物の力」は何か。それは、「利権」と「メディアの宣伝力」である。



意図的決定の後、お礼の言葉を述べた議員



新設を許す「建設的」な意見。古田建設部長の「建設的」な意見。古田建設部長の「建設的」な意見。

に潜む間、利権を公に晒すことが最低限必要である。しかし、賈物の小池が出す結論は、マスコミに「時間切れ」と言わせて、豊洲を多少直して、市場を移すことになるだろう。

賈物に抵抗する私たちの持つ力は、「数」とばらばらにされない「ネットワーク」だ。

小池都知事は本物か。現在、東京で起こっている築地移転問題は、青島知事が都市博を中止して立ち消えになっていたが、2008年石原知事が突然、「築地を2016オリンピックのプレスセンターにする」と言い出した。この記者会見では築地の移転先は東京ビックサイトの活用であった。しかし、都は、すでにこつそりと豊洲・東京ガス跡地を調査し、安全宣言を出した。これに対し私たちが独自に調査した結果、ベンゼンでは何万倍という汚染数値が出た。そして最大の山場の2011年3月11日、都議会でも「築地移転関連の予算案」は、民主党など野党が一票多い63票の反対多数で否決される予定だった。ところが、特別委員会委員長の民主党花輪議員が寝返り、本会議では予算が可決された。その日の夕方、東日本大震災が起こる。築地の土地は当時2兆円と言われ、日本橋銀座界隈は地上げにさらされておられ、利権が取り沙汰されていた。その後、花輪は世田谷区長選に自民党から出で落選した。

小池知事が本物なら、①築地移転を止める。②石原元知事の責任・利権を明らかにする。③花輪都議変節

「悠々ライフ」へいきがい支援協会（機関紙）で知った人が多かった。日退教の持つネットワークはまだまだ弱い。私たちが力を持つには単会から個人へのネットを強固にし、もつと会員を増やす必要がある。今まで私たちは、「現退一致」といつてきたが、再任用制度の導入や18歳選挙権の新しい状況では「現退なし」といいたい。私たちは、学校現場と地域社会をつなぐ架け橋になる必要がある。そして当面、日教組組合員を全員日退教へと運動を進めたい。

この集会を、日退教が大きく翼を広げる機会となることを期待して挨拶とする。

【活動報告】

西彼退教協の活動

西彼退教協 奥土居 崇

西彼退教協の組合員数は61名です。御多分に洩れず、会員は高齢化し、会員数も活動に参加できる人数も漸減しています。そんな中で、総会や親睦を深める会、学習会、平和と民主主義を守る活動などに取り組んでいます。

活動の一端を紹介しますと、4月には総会があり1年間の活動計画や予算を決定します。総会への参加者は20名前後で、諸活動の中で一番多くの会員が参加します。終了後懇親会（新加入者があれば歓迎会）をしますが、ここ数年、新退職者の加入はありません。9月から10月にかけて、隔年ごとに日帰りか1泊の旅行をします。今年は1泊で雲仙に行きました。参加者は13名でした。

1月には新年会を実施する予定です。

毎月1、2回役員会を開いて、行事やいろいろな取り組みについて具体的な計画を立て、機関紙「西彼退教協だより」を年6回配布します。

今年も参議院選挙がありました。4野党共闘が実現したにもかかわらず、参議院選で安倍政権の暴走にストップがかかれずとも残念でなりません。しかし、あきらめたら終わりです。

憲法「改正」や集団的自衛権行使の現実味が増してくる中、西彼退教協は、長崎退教協や西彼退女教などとともに、3年前から取り組んでいることがあります。それは「9の日の行動」です。毎月9の日に長崎市の鉄橋で、通行する人に向けて、憲法「改正」や集団的自衛権行使反対の訴えをしています。手作りの横断幕を掲げ街宣をし、ピラを配るのです。主催団体を、最初は「長崎・西彼退職教職員会」としていましたが、誰でも参加できるようにと、誰でも参加できるようにと、このこと、「平和憲法を守る市民の会」としました。強制や動員はしないで参加できるときに参加するようにしています。参加者は毎回15、20名でまずまずの人数です。遠くは大瀬戸から参加してくれる人もいます。

通行する人の反応ですが、横断幕を見たり、街宣に足を止めて聞いたりする人もいますが、無関心に先を急ぐ人が多いように思います。ピラを受け取るのは1、2割くらいでしょうか。しかし、中には自分も「憲法改正」には反対だから、署名をしたいが用紙はないのかと聞き、ないとわかって、一緒にピラ配りをしてくれた人がいます。こんな人がいると励みになります。効果のほどはわかりませんが、これからも地道にこの活動を継続し、少しでも参加者や理解者を増やしたいと思っています。

そのほかに、県退教協や高間連、長崎地区労、県教組などの各種集会や会合、学習会などに積極的に参加しています。



ヨカ余暇生き生きコーナー

古きよき友と集いて

退教協北松支部長
森 光榮

私達の北松支部は、かつて教職員組合北松総支部に所属していたものたちの組織である。

昔は、同じ職場・学校に勤務し、共に教育活動と組合活動に励んでいたものが多い。北松地区は、離島が多い。生月・大島・度島・宇久・小値賀・福島・高島・青島・黒島・鷹島など九州の西の端の島である。伝統を守る島びとたちと暮らしを共にし、教職員として活動したものであつた。

また職場は違つていても、出張、研修会や県教組の代議員会・分会長会で出会つたりして、友人であつたり昔からの馴染みの顔であつたりして、この北松支部の仲間とは、気安くつきあい、語らい合うことが出来るのである。

さて、私たちの退教協北松支部は教職員組合県北総支部の仲間たちとの交流も、数十年來続いている。

吉井サンパークで、今年も「つなごろう会」を開催し、現職教職員、OB・OGと現職が集い、来賓を迎えて交流会を行い、会食をしている。若いものは二十歳そこそこの若者、上は八十越えのものたちである。なかなかの賑わいの中で、先輩・後輩の会話が弾み、交流の場であり、学び合いの場にもなつていようである。

そして、教職員組合の役職員との交流の場でもある。ちなみに教職員組合の堤執行委員長もかつては、私たちの仲間として、共に活動したものである。

また、県北総支部平戸支部と「平戸仲間会」の交流もかなり長く続いている。平戸支部総会の時に、退教協・退女教の仲間が集い、会食をして、語らい合う機会を設定して、久しい。

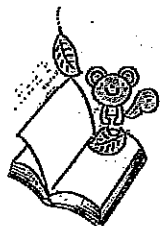
ここでも、昔の思い出話やお互いが支え合う話が出たりして、和気藹々のなかで過ぎ去っている。ここでは、自己紹介と近況報告を兼ねて出席者全員が二、三分のスピーチを行つていく。

老若共に酒を酌み交わし、交流が出来ることは、退職したものにとつては、元氣なパワーを貰ういい機会である。

そして、この語らいの中で、日本や世界の将来や現在の政権の現状に対するお互いの思いや批判など、更に教職員組合の将来のことも話に出る。

また、退教協北松支部では、毎年一泊二日の研修旅行を実施している。本年も実施する予定であつたが、台風による雨のため中止になり、残念なことの上なしてある。

また、平戸地区の「平戸仲間の会」では、新年会等を開催し、交流を行い、「年寄り意識」を持つまいと、お互いに言い聞かせて、生き生きと生き延びたいと、励まし合つているところである。



寄りかからず

茨木のり子

もはや

できあいの思想には寄りかかりたくない

もはや

できあいの宗教には寄りかかりたくない

もはや

できあいの学問には寄りかかりたくない

もはや

いかなる権威にも寄りかかりたくはない

ながく生きて

心底学んだのはそれぐらい

じぶんの耳目

じぶんの二本足のみで立っていて

なに不都合のことやある

寄りかかるとすれば

それは

椅子の背もたれだけ

